

まんが家直伝! 達人の技で、まんががどんどん上手くなる!

Sho-Comi まんが アカデミア

達人に聞け

まんがが上手になりたい! でも、作画にストーリーに演出...いきなり全てをアップデートするのは難しい。だったら、まずはひとつ自分の“武器”を手に入れよう! そのためのテクニックを、その道の達人であるまんが家先生に直撃インタビュー。月イチだけのスペシャル連載です!!

第12回 色気のある男子の達人

梅澤麻里奈先生

次はいいね、先輩



留年して再び高2になった真緒は、同クラスでサッカー部の後輩・蜂谷から、猛アプローチをされる。突然姿を消した元カレを忘れられずにいた真緒だが、蜂谷の一途な想いに心を動かされ、2人は恋人同士に!

第12回のテーマは「色気のある男子」。もちろん描きたいけど一体どうすれば? と悩む人も多いはず。色気男子の代表格、「次はいいよね、先輩」の蜂谷を描く梅澤麻里奈先生に極意をお聞きしました! 「何を考えているかわからない気だるさ」に色気を感じるといふ先生。「三百眼の鋭い目つきが好き」で、蜂谷は「ツリ目でもヤル気がなさそうな顔」に描いているとか。また「骨っぽさや質感」といった体のラインをいかに表現するかも大事。「ピーローに最高! と思える色気を詰めこんで」描くことで「読みたい! と思う作品」のキャラも作れるように! 色気のニュアンスを出す作画のこだわり、そのポイントとは...!

その1 色気を表現するためのパーツは“顔と髪”のすべて



▲男性の正面顔では必ず鼻の穴を描くのは「顔のバランスが取りやすく、男っぽい色気を出す」ため。「唇も薄めのほうが色気を感じるんです」



▲視線を考えて描いたまつ毛は、色気が倍増! 「いいまつ毛が描けてる」と思うと、美しく余韻のある目元に。また「眉頭が細く眉尻が太いと、顔つきが遅くなりますね」

色気のある表情を描くために重要な顔のパーツは、「全部」です。蜂谷はすごくこだわりを持って描いています。梅澤先生、色気を出すための、「流し目」などの視線の送り方、「伏し目のときにはまつ毛をつける」「唇は薄め」「正面の顔は鼻の穴をしっかりと描く」など、細部まで意識を行き渡らせています。梅澤流色気のコツはこんなに!



ベタが塗れたらホワイトで遊び光が当たる部分に白を多く残しながら、塗っていきます。今回は頭頂部に白が多めです。ペン入れした絵。ここに好きな所から筆ブラシでベタを入れます。ベタの位置は感覚で。

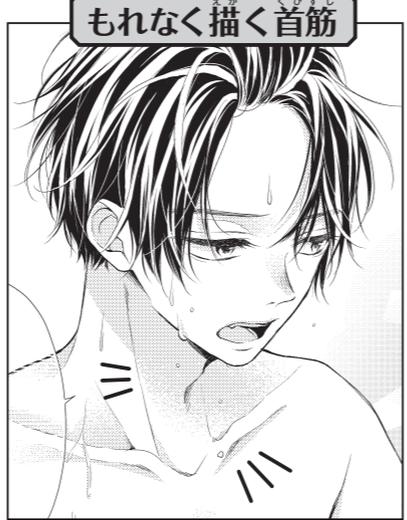


▲「後れ毛を出すこと」で表現し、「耳を出すほうが頭も小さく見える」そう。「筆ブラシで感覚的に描く」という独特のベタ髪の塗り方は左でチェックを!

その2 色気は筋や間接に宿る



▲「手へのこだわりはゆずれなくて。指は細長く関節がしっかりとしているほうが好きですね」



▶▶「首の筋はもれなく描きます。あと喉仏も」という首のライン。とくに喉仏は、正面でも横向きでもはっきり骨っぽさを出している。



その3 色気の骨格は“布”が作る

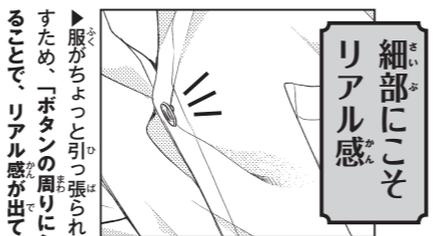
「服がはだけたり、袖をまくること」など、服は色気を作る重要な要素。先生の描く服はシワの数が多く、骨格や体のラインを表現する方法に。「描くのは大変でも、入れたほうが絶対カッコいいので。自分の服を引っ張って、見て描いたりします」。むやみに入れるのではなく、服のシルエットやシワの動きを普段からチェックすることがO。



▲布の重なり、シワの向きは不自然にならないように。「袖をまくる腕を魅力的に見せるため」の美学で、制服男子は一年中長袖という主義!



▲どこに骨があるかを意識して、筋肉がわかる服のシルエットがポイント。体を動かすときはシワの位置にも変化を。



「シワを入れる位置にはこだわっています」

番外編

先生のイチ推しシーン!!

ずっと描きたかったこのシーン



▲「念願叶って実現した、「蜂谷に鼻血を出させたかった」という試合のシーン。弱っている部分にもまた色気が。でも「まだ出し方が足りなかったかも... (笑)」。

蜂谷の色気がダダ漏れてるのは...



第13回(17号)はキャラの立て方の達人 星森柚稀も先生 お楽しみに!!!